

校長からごあいさつ

～ いま中学生と保護者のみなさんに伝えたいこと ～

大阪府立三国丘高校

校長 藤井 光正

私は、入学式の式辞の中で毎年、「今日から、みなさん（新入生）を我が子だと思うことにします」と宣言しています。本気でそう思っています。

学校説明会などで中学生やその保護者のみなさんの前に立ってお話しする時にもその気持ちは少しも揺るぎませんので、時折熱が入りすぎることがあります。

聴いていただいた保護者の方から「熱かったですねえ」と言われて、「ああ、またやらかした…」と反省することが度々あります。すみません。

今日は、高校選びに苦心しているみなさんに、私から 3 つのことをお伝えしたいと思います。多分に私見が入っていますので、違う意見を持っておられる方は、校長のくせに親気取りで勝手なことを言っていると苦笑しながら読んでください。

早速 1 つめです。高校選びの、最初のポイントは、「風を感じること」です。

学校の風なので「校風」です。

これは本当に千差万別です。各校でちょっとずつ違います。

例えば、GLHS10 校の中で、三国丘高校の校風は？と問われたら、「自主自立の香りが強い文武両道」みたいな感じだと答えます。

校長のくせにいい加減な…と怒られそうですが、風は見えません。どれくらい強いのか、どんな香りがするのか…実際に吹かれてみないとわからないものです。

風に吹かれるには、現場に立つより他に方法がありません。是非、三国丘高校に来て、風を感じてください。待っています。

2 つめは「時を感じること」です。

学校によって長短はありますが、高校の歴史を知ることは大事です。

本校を例にとって説明してみしましょう。時を感じるために注目するのは校則です。

校則はどの学校にもありますが、校則って結構いろんなことを語ってくれています。

三国丘高校の校則は「われらの学校生活」という名前で呼ばれています。昔々につくられたもので、前文はこんな感じです。「われわれは、憲法と教育基本法の本質に則り…（中略）…自発的にかつ積極的に正しい学校市民として行動し、三国丘高等学校生徒としての誇りをもとう」生徒が自分たちのために作った校則であることが読み取れます。この一文（抜粋）を読むだけで、三国丘高校の成り立ちが理解できます。実際、三国丘高校を肌で感じてみると、「われらの学校生活」に謳われた精神が今に生きていることがわかります。

例えば、生徒会の選挙です。ほとんどの学校では、生徒会役員選挙とか生徒会執行部選挙とか呼ばれている選挙ですが、本校では、生徒会長選挙と言います。もう、おわかりですよ。立候補者は全員、生徒会長候補です。この選挙で決まるのは生徒会長だけです。長らく引き継がれてきたこの選挙方法には理由があります。選挙演説では、各候補者が掲げる政策を訴えます。政策を語れるのはトップリーダーだけです。有権者である生徒は政策を判断材料にして投票します。これこそ真の生徒自治です。先にお示しした「校風」のお話も、少しは理解が進んだのではないかと思います。時が育んだものは、その学校の文化に深く根ざしているのです。

「時を感じる」というのは、何も大上段に構えた理屈っぽい話ばかりではありません。三国丘高校は、大阪府で 2 番目に古い高校です。その分卒業生の人数も多いです。優秀な卒業生が多いので、あらゆる場面で卒業生に助けをもらいます。その度に私は、「三丘愛はハンパない!」と独り言ちるのです。例えば、三丘セミナーという取組は、各界の第一線で活躍されている研究者等を学校に招いて、生徒に講義をしてもらうというのですが、毎年、たくさんの卒業生が講師をつとめてくださいます。

普通じゃ決してお目にかかれないような人が、生徒の前に立って熱く語ってくださるのです。これを愛と言わずに、なんと表現できるでしょうか。

敢えて名前を書かずとも、みなさんよくご存じかと思いますが、検事総長や元宇宙飛行士、J リーグを創設されたあの先生まで、生徒に語りかけてくださるのです。そんなことができる学校が、何校あるでしょうか。まさに、三国丘高校に流れてきた時を感じ、時に感謝する瞬間です。

最後は、「夢を感じること」です。

心理学者エリクソンは言いました。「青年期の課題はアイデンティティの確立」だと。

アイデンティティの確立というのは「なりたい自分を見つけること」です。高校時代の目標は「なりたい自分を見つけること」だということです。難関国公立大学に現役合格することではありません。自分はどんな人間になって、どんなふう to 社会の役に立ちたいのかという答えに近づいて、それができる場所に自分の身を置けるように頑張ること…これこそ、高校時代にすべきことです。

なりたい自分を探すには、何をすればよいでしょう。机にかじりついて勉強し、試験で高得点をとることではありません。朝から晩まで白球を追いかけてプロをめざすのも良いですが、他のことに挑戦せずに道を限定することが、白球を追いかけているすべての高校生にとって幸せだとは思いません。なりたい自分を見つけるために不可欠なものは「失敗」です。あらゆる分野のいろんなことに首を突っ込んで、あちらこちらに頭をぶつけて、やっと見つかるのが、なりたい自分、即ち「夢」なのです。

理想を追い求めすぎ…なんて思っていないですか。三国丘高校の生徒に理想を求めずに、誰に求めると言うのでしょうか。我々教員の仕事は、ホンモノに出逢う機会をできるだけ多く設定することと、迷っている生徒のそばに寄り添うことです。あなたがめざす高校に、「夢」を見つけるためのストーリーがありますか。それが判断基準です。

「ごあいさつ」と言いながら、思いつくままに書いてしまいました。最後まで読んでくださって、ありがとうございます。最後に、私が、日々書きまくっている「校長ブログ」の中から、写真を2枚載せます。私も写っていますので、探してみてください。

